



TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup2022 Rd.2 SUGO

突然のウェットとなった予選から、ドライの決勝と状況が変わる中で堤選手がファステストラップを記録し5位、石坂選手が初ポイントの6位入賞

Qualifying | #7 / 8th / 1'46.698 ・ #700 / 20th / 1'47.412
#770 / 5th / 1'46.444

▶ 2022.08.20.SAT

▶路面コンディション：ウェット ▶気温：25℃ ▶路面温度：32℃

新たなマシンとレギュレーションで7月に開幕を迎えた「TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup」。国内屈指の人気を誇るワンメイクレースは新シリーズでも大いに盛り上がりを見せ、開幕戦から90台近いマシンがエントリーした。

「T by Two CABANA Racing」は2018年より前身となる86/BRZ Raceのプロフェッショナルシリーズに参戦してきた。今季はチームの母体となる株式会社東名の社員ドライバー堤優威選手が7号車に、様々なカテゴリーで活躍してきた経験を持つ阪口良平選手が700号車に、若手ドライバーで上位カテゴリーへのステップアップを目指す石坂瑞基選手が770号車に乗り、3台体制でGR86/BRZ Cupを戦うこととなった。

第2戦は宮城県のスポーツランドSUGOが舞台で、8月19日(金)にタイム計測が実施される専有走行、20日(土)に予選、21日(日)に13週の決勝レースが実施された。

チームは開幕戦の富士スピードウェイの後にプライベートテストを行ない、ドライバー、エンジニアともにマシンへの習熟度を深めて第2戦へ挑んだ。

第2戦の走り始めは17日(水)で、この日はセットアップの確認を含めたチェック走行が中心となる。18日(木)は3枠のスポーツ走行が設けられていて、予選シミュレーションや決勝レースを想定したロングランを実施。翌19日(金)は専有走行が13時35分から30分間にわたって行なわれた。走行初日から好調な様子を見せていた7号車の堤選手は、2セットのニュータイヤを履き2回目のタイム

アタックで1分36秒908の全体トップタイムをマーク。700号車の阪口選手も1分37秒198で5位となり、2台は予選に向けて順調な仕上がりをみせた。参戦2戦目となる770号車の石坂選手は、コースコンディションに合わせ切れず1分38秒039で27位となった。

予選日となった20日(土)は前日までの好天から一転して曇り空となる。予選時間の昼過ぎには雨が降ることも予想された。それでも、プロフェッショナルシリーズの直前に組まれていたクラブマンシリーズの予選では、雨は降らずドライコンディションで開催された。ところが、プロフェッショナルシリーズの予選時間が迫ると雨雲がサーキットを包み、開始直後に大粒の雨が降り出す。コンディションが悪化する前にタイムを残したいということでエントリーした37台が一齐にコースに入る。すると5分が経過したところでスピンした車両がコースサイドのスポンジバリアに衝突し、セッション中断の赤旗が提示される。中断の間に天候は小雨となったが、路面は全面的に濡れてしまった。3台ともにタイヤの内圧を調整して再度コースに入ると堤選手が計測6周目に1分46秒698をマークし8番手、阪口選手は計測3周目に1分47秒412を記録するが、ここからタイム更新できず20番手、石坂選手は計測5周目に1分46秒444をマークし5番手となった。突然の雨によってコンディションが変化したものの、堤選手と石坂選手がシングルポジションを獲得し、決勝レースを迎えることとなった。





前日の予選は突然の降雨によってウェットコンディションとなったが、決勝レース日の8月21日(日)は早朝から晴れ渡り、スポーツランドSUGOには強い日差しが照り付けた。プロフェッショナルシリーズの決勝レースは、予定通りの13時10分に参加した全車がコースインする。気温はレースウィークの中でもっとも高い33℃となり、路面温度は47℃まで上昇。ドライバーにとっては過酷な状況での決勝レースとなった。

T by Two CABANA Racingの3台は、770号車の石坂選手が5番手、7号車の堤選手が8番手、700号車の阪口選手が20番手からスタート。石坂選手は1コーナーの進入で行き場を失いポジションを下げ、堤選手も1コーナーまでに1台にパスされてしまう。だが、オープニングラップは各所でコースオフなどの混乱があり、1周目のコントロールラインを石坂選手が6番手、堤選手が8番手、阪口選手は17番手で通過。2周目には堤選手がファステストラップを記録し、先行するマシンとのギャップを縮める。翌3周目には7番手のマシンをパスし順位を上げ、石坂選手の背後に迫る。770号車と7号車の2台のバトルは5周にわたって続く。ドライコンディションでは堤選手にアドバンテージがあり、8周目の4コーナーで堤選手が石坂選手のイン側からパスする。6番手に浮上した堤選手はペースアップし、トップ5のマシンを追う。石坂選手は、堤選手にパスされると同時にもう一台にも抜かれてしまい8番手に後退。終盤になっても堤選手の

ペースは落ちず11周目には5番手に浮上するが、4番手とは1秒ほどのギャップがあり逆転は難しい状況だった。8番手までポジションを下げた石坂選手は後続からプレッシャーをかけられるが、それでもポジションを守り続ける。結果として堤選手は5番手で、石坂選手はファイナルラップのコントロールライン前に7番手に浮上しレースを終えた。

オープニングラップに17番手までポジションを上げた阪口選手は、3周目にトップグループと遜色ない1分38秒519の自己ベストタイムをマークすると6周目に1ポジション、翌7周目にさらに1ポジションアップし15番手となる。中盤以降もラップタイムは落ちずに周回するが、序盤に先行集団から離れてしまったことによりパッシングには至らず、13周目に15位でチェッカーを受けた。正式結果は6位でゴールした選手にペナルティが科されたため堤選手は5位のままだが、石坂選手が6位、阪口選手が14位と1ポジションアップして第2戦を終えた。

開幕戦から約1ヶ月のインターバルで開催された第2戦は、3台ともに大幅な進化を見せて、路面コンディションによってはトップレベルの状態にあることを示した。堤選手は5位入賞とファステストラップにより9ポイントを獲得、石坂選手は6位入賞で初となる7ポイントを手に入れている。次戦は本州を離れ北海道の十勝スピードウェイで9月24日、25日に実施される。





Hiroshi Ando

Team Chairman/Director's Comment

安藤 宏チーム代表兼監督

開幕戦から短い期間ですが、チームとしては新しいマシンやタイヤの特性を掴み始めたと思います。スプリントレースの86/BRZ Cupはやはり予選の結果が重要で、予選への対応力が常に課題にはなってきます。一方で決勝レースでは、3台とも力強いペースによりライバルを抜いてくれました。今季から参戦している石坂選手はスタート順位から落としはしましたが、粘り強く走り86/BRZ Race時代から上位で走っているライバルに遜色ない争いを見せてくれました。堤選手はファステストラップを記録し、結果としてもブリヂストンタイヤ勢のトップで、天候や展開次第では優勝も狙えたと思います。阪口選手は予選で運に見放されましたが、次戦では上位で戦ってくると確信しています。この調子を維持して、次戦の十勝では3台ともにポイントを獲得できるように準備します。



Yuui Tsutsumi

Driver's Comment

#7 T by Two カバナ BS GR86 堤 優威選手

今回は走り出しから調子が良く、自信を持ってレースウィークに臨めました。タイヤやブレーキ、持ち込みのセットアップもコース状況と合っていて、ドライの専有走行ではトップタイムをマークできました。予選ではスタート前にウェットコンディションになり、ブリヂストンタイヤ勢にとっては不利な状況でした。同じタイヤを履くマシンの中ではトップでしたが、ドライなら違った結果になっていたはずで残念です。決勝レースではファステストラップを獲得して、ポテンシャルがあることは示せました。それだけに予選の順位が悔やまれますが、状況は良くなっているので次戦の十勝が楽しみです。



Ryohei Sakaguchi

Driver's Comment

#700 MOTUL TWS GR86 阪口 良平選手

開幕戦は車両トラブルで戦えませんでした。菅生戦までにテストもでき自信のある状況で第2戦を迎えました。今回装着したダンロップタイヤに対する理解度も増し、ドライコンディションの専有走行では5番手のタイムでした。しかし、予選はデータのないウェットコンディションとなり、想像したパフォーマンスを引き出すことができませんでした。決勝レースは途中から単独走行となり、タイヤのグリップが落ちてきた最終盤に走り方を変えたら予想を超えるラップタイムで走れました。リザルトは残念でしたが、獲れたデータなどを考えると内容の濃いレースでした。この経験を活かして第3戦以降は得意なサーキットが続くので、上位争いをしていきます。



Mizuki Ishizaka

Driver's Comment

#770 FORCE LABO カバナ GR86 石坂瑞基選手

走り始めから専有走行までのドライコンディションでは、ドライビングを合わせ切れず後方に沈んでしまいました。ただチームメイトからアドバイスをもらい、ドライビングの課題が明確になりました。ウェットコンディションでは開幕戦でも手応えがあったので、予選の雨は運があったと思います。決勝レースは課題を克服できるように走ったつもりで、回りと比べて専有走行ほどの差はありませんでした。ただレース展開は先行するマシンについていくのが精一杯で、パッシングすることができませんでした。今回は激戦の86/BRZ Cupで初めてポイントも獲得でき自信にも繋がりました。収穫の多いレースだったので、反省点を見直して次戦に臨みたいです。



Noboru Yamazaki

Chief Engineer's Comment

山崎 登チーフエンジニア

開幕戦後に富士スピードウェイでテストを実施し、各車ともに方向性が見えてきました。堤選手は走り出しから手応えがあり、上位入賞が見込める状態でした。予選結果が悔やまれますが、決勝レースでは実力通りの走りを披露してくれました。阪口選手はダンロップタイヤを履いたのですが短時間でポイントを押さえ、ベテランドライバーらしく性能を引き出していました。結果は残りませんでしたが、良い方向へのステップは踏んでいます。石坂選手は専有走行まで苦戦していましたが、阪口選手のアドバイスなどで課題を克服しつつあります。ワンメイク車両の走行経験が少ないのでテストを重ねて、常に上位で争えるドライバーになってもらいたいです。チームとしてはマシンの理解度が増し、かなり前進できたラウンドでした。次戦は3台ともにポイントを獲得したいです。